

子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果について(報告)

1 調査結果の概要

令和4年度に実施した「子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査」の結果を別紙のとおり取りまとめました。

この調査で明らかとなった次に掲げる**懸念1～3**に対して、以下の方向性の対応が必要と考えています。

【調査結果からみる懸念と対応の方向性】

(1) **懸念1 家庭の経済状況(世帯収入)の二極化**

世帯収入の中央値がH29調査では301.8万円、R4調査では418.6万円となっており、基準変更を勘案したとしても全体的には上昇傾向であることがうかがえます。

また、暮らし向きにおいては、H29調査と比べ「大変苦しい・苦しい」の割合は全体的に改善傾向(前回比▲18.8%)にあります。

その一方で、コロナにより収入が減少している世帯は、全体では24.3%であるのに対して、収入の少ない世帯では47.5%と高くなっています。また、経済的理由による欠乏経験(習い事をできなかった等)を見ても、「欠乏経験がない」世帯が、全体ではH29調査と比べ改善傾向(前回比8.6%増)にある一方で、収入が少ない世帯では改善していない(前回比▲0.6%)ことから、家庭の経済状況の二極化が進んでいることが懸念されます。

対応

→経済基盤が弱い家庭をこれまで以上に早期に発見・支援できる相談支援体制づくりが必要です。

(2) **懸念2 家庭の経済状況(世帯収入)が及ぼす「将来に対する希望」への影響**

収入の少ない世帯の生活満足度が高い(6点以上)中学生の割合は、65.1%と全体結果の75.0%に比べ低い傾向にあります。また、進学見通しについても、「大学まで」とした割合は収入が少ない世帯で23.9%と全体結果37.5%に比べ低くなっており、家庭の経済状況等が進路選択の制約事由になっていることが懸念されます。

また、支援者調査では、自尊感情の低さや将来に対する希望を抱かない傾向があることが指摘されています。コロナ禍や家庭の経済状況等により自分の得意なものや好きなものを見つける機会が減少しているのではないかと、この懸念があります。

対応

→家庭への経済的支援や学習支援を進めることに加え、家庭の経済状況等に関わらず、地域や多様な人とのつながりや新たな挑戦などにより「なりたい自分になる」ための、子どもの成長を支える環境づくりが必要です。

(3) **懸念3 支援を必要とする「ヤングケアラー」の発見にくさ**

1日に3時間以上家族の世話をしている小学生が調査回答者1,199人の内13人(1.1%)、中学生が1,372人の内10人(0.7%)おり、家族を世話することが常態化している子どもが一定数存在することが明らかになりましたが、これらの子どもたちと家族構成や世帯の経済状況との明確な相関関係はみられませんでした。

また、支援者調査では、家族の世話を当たり前だと考えている子どもがいることが指摘されており、本人からの発信が期待できないこともあり得ることから、支援が必要な「ヤングケアラー」を見つけにくいことが懸念されます。

対応

→周囲の大人たちが様々な接点を通じて早い段階で子どもの状況を把握するとともに、本人の意向を尊重しながら、子どもが自分自身の置かれている状況を認識し、それを見直せる機会を持てるように適切に支援することが必要です。

2 本調査を踏まえた取り組み

(1) 現在の子どもの貧困対策計画等に基づく取り組み

「第2期子ども・子育て支援事業計画（子どもの貧困対策計画）（R2～6）」及び「三田市子どもの貧困対策プログラム（R2～6）」に基づき、4つの施策分野について、R5年度から以下の取り組みを進めています。

施策分野	充実・強化する主な取り組み内容
①早期発見・早期支援の体制づくり 懸念1・懸念3	<p>妊娠期から子どもの社会的自立まで、複合的な課題等を抱える恐れがある家庭や子どもを早期発見し切れ目のない相談支援体制を強化していく。</p> <p>→新【子ども家庭センター設置による支援体制の構築】 ・個々の子どもや家庭の状況に応じ適切な支援をつなぐためのサポートプランを作成し、支援団体等とも連携した包括的な相談支援体制を構築します。</p> <p>→新【未就園児等全戸訪問事業】 ・就学前施設に在籍していない未就園児等の居宅を訪問し、子ども・家庭の困りごとを把握し、必要な支援・サービスにつなげます。</p>
②保護者に対する就労支援・経済的支援 懸念1・懸念2	<p>経済的基盤の弱い家庭やひとり親家庭の安定的就労につなげる支援や安心して子育てができるような経済的支援を推進していく。</p> <p>→継【ひとり親家庭養育費確保支援事業】 →継【ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業などひとり親向け各種支援事業】</p>
③学習・進学への支援 懸念2	<p>民間も含めた人材や資源を活用し、支援の必要な子どもが学習できる教育環境づくりを行っていく。</p> <p>→継【子どもの学習・生活支援事業】 →新【ICT活用による不登校支援（あすなろ e-school）】 ・GIGA スクール端末を活用し、仮想空間でのコミュニケーションや学習を通して、社会や人との関わりを持つきっかけづくりをします。</p>
④居場所づくり 懸念2	<p>様々な学びや社会で生き抜く力を得るための糧となるような、安心して過ごせる居場所づくりを行っていく。</p> <p>→継【放課後子ども教室の充実】 →継【子ども食堂へのネットワーク強化】</p>

※「ヤングケアラー（**懸念3**）」については、市子ども家庭センターが中心となり、学校等関係機関と連携し要支援家庭の早期把握に努め、家事ヘルパーを派遣し、養育環境を整える**新**【子育て世帯訪問支援事業】等を活用するなどにより、状況に応じた適切な支援につなげていきます。

(2) 今後の取り組みについて ～体験の機会を重視した成長を支える環境づくり～

国では、今秋を目途に貧困対策を含む既存3大綱(少子化、子ども・若者育成支援)を一元化する「こども大綱」の策定が進められており、市においても、次期第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に向け、本年度は利用者ニーズ調査の実施、令和6年度には策定作業を予定しています。

今後、国から示される少子化対策やこども大綱による新たな支援制度等を基盤とし、本市の実状に応じた取り組みを効果的に進めるため、「なりたい自分になる」ための体験の機会づくりなど、本調査結果から看取された懸念や対応の方向性等を念頭に、家庭の経済状況等に左右されることのない、成長を支える環境づくりについて次期計画策定を通じて具体的支援や施策等を検討していきます。

三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査の結果について（報告）

1 目的

平成 29 年度の調査から 5 年が経過し、新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル化の進展など、子どもや保護者を取り巻く社会環境は大きく変化したことから、子育て家庭の現況及びニーズを把握し、今後の取組みについて検討するための基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。

2 調査の対象・方法

①アンケート調査 (R4. 7/15~8/4)	配布数 (人) (子ども・保護者)	回収数 (人)	回収率		
			今回 (R4)	前回 (H29)	(対 H29 比)
小学 5・6 年生	2,118	1,199	56.6%	48.8%	+7.8%
中学生	2,769	1,372	49.5%	41.7%	+7.8%
保護者	4,887	2,569	52.6%	39.0%	+13.6%
②支援者調査 (R4. 10. 3~5. 1. 6)	対象：小中学校、認定こども園、保育園、子ども食堂、行政など日頃から困難を抱える世帯の支援に関わる団体		ヒアリング調査 87 団体（調査票形式）、個別インタビュー調査 17 団体		

※アンケート調査は、前回より児童・生徒では約 8%、保護者では約 13%回収率が上昇しました。

3 調査結果の概要

(1) 世帯収入の状況（貧困の課題を抱えている世帯）について

- ・等価世帯収入(※注1)の中央値は、418.6 万円（国：317.6 万円）。共働きの割合が高くなり、中央値は上昇
- ・中央値の 2 分の 1、209.3 万円未満の世帯(以下、「収入の少ない世帯」とする。)の割合は 9.9%で、前回は▲3.7%（国：12.9%）

	今回結果	市前回 (H29)	国 (R2) (※注1)
収入の少ない世帯(基準：中央値の 1/2 未満)	209.3 万円	150.9 万円	158.8 万円
収入の少ない世帯の占める割合	9.9%	13.6%	12.9%

＜参考＞

(※注1)【算出方法及び考え方は国の「令和 3 年子供の生活状況調査の分析報告書」に準拠】
 等価世帯収入とは「世帯の年間収入を、同居家族の人数の平方根で除した収入」、等価世帯収入の中央値の 2 分の 1 未満に該当する世帯を相対的に「貧困の課題を抱えている世帯（収入の少ない世帯」と称する)」であると考え、世帯収入区分別及び世帯構成別で集計・分析を行いました。

(2) 保護者の状況

ア【世帯の経済状況と暮らし向き】

世帯総収入について、最多は 1,000 万円以上で、750 万円以上の各選択肢で前回より微増しています。収入のある人数は、1 人の回答が減り 2 人が増加しています。

【世帯の総収入】	1,000 万円以上	17.2% (H29:8.5%、R2 国 15.3%)
【収入のある人数】	2 人	69.2% (H29:61.9%)

現在の暮らし向きは、国と同じ傾向で、普通と答えた人が6割です。大変苦しい・苦しいの合計は改善し、経済的理由による欠乏体験を問う設問においても、経験なしと答える割合が改善しています。

【暮らし向き】普通	61.9%	(H29:40.8%)
大変苦しい・苦しい	24.0%	(H29:42.8%、R2国25.3%)

イ【就労状況】

母親の半数はパート・アルバイト勤務（1か所）で、正社員割合は前回より上昇しましたが、国より低い状況です。働いていない人は前回より減少しましたが国より高く、子育て優先を理由に挙げる人が半数となっています。

【母親】正社員	19.2%	(H29:15.9%、R2国27.4%)
パート等（1か所）	50.0%	(H29:46.0%、R2国42.8%)
働いていない	18.2%	(H29:23.9%、R2国14.6%)

ウ【生活の満足度】

生活の満足度は10点満点で8点が最多で、収入の少ない世帯では5点から8点まで幅広く分散し低めでした。ひとり親世帯は7点が最多となっています。収入と生活の満足度が比例するなど概ね相関関係にある傾向が見られます。

エ【子どもとの関わり】

子どもの相手をする時間は、平日において3時間以上が減少し、1時間～2時間未満が最多です。収入の少ない世帯は平日、ひとり親世帯は平日・休日も、子どもの相手をする時間が少なめとなっています。

【子どもの相手（平日）】3時間以上	15.5%	(低 13.1% <input checked="" type="radio"/> 14.9%)	(H29:27.3%)
1時間～2時間未満	28.6%	(低 24.4% <input checked="" type="radio"/> 24.3%)	(H29:22.7%)

オ【子どもの進学の見通し】

子どもが大学まで進学すると思う保護者は6割いますが、7人に1人（15%）はまだわからないと回答しています。ひとり親世帯は5割強が大学進学の見通しを持っていると回答しています。

【進学の見通し】大学まで	65.6%	(低 46.6% <input checked="" type="radio"/> 55.1%)	(H29:74.3%（短大含む）、R2国50.1%)
--------------	-------	--	----------------------------

(3) 子どもの状況

ア【生活の満足度】

生活の満足度は、小学生は10点が最多で、中学生は8点が最多です。点数の分布は国と同様の傾向となっています。収入と生活の満足度が比例するなど概ね相関関係にある傾向が見られます。

イ【勉強時間】

平日・土日ともに、勉強時間は小学生は30分以上1時間未満が最多で、中学生は1時間以上2時間未満が最多となっています。小学生、中学生とも収入の少ない世帯とひとり親世帯では、「まったくしない～1時間未満」の割合の合計が、平日・土日とも高めとなっています。

【勉強時間：まったくしない～1時間未満】			
小学生	平日	57.5%	(低 63.4% <input checked="" type="radio"/> 66.0%)
	土日	61.8%	(低 73.2% <input checked="" type="radio"/> 63.8%)
中学生	平日	45.1%	(低 51.4% <input checked="" type="radio"/> 59.5%)
	土日	41.6%	(低 50.4% <input checked="" type="radio"/> 56.1%)

ウ【放課後の過ごし方】

放課後について、小学生・中学生とも自宅で過ごす割合が上昇し、特に小学生は公園・広場で過ごす割合が減少しています。

【放課後過ごす場所】	小学生	自宅	72.9%	(H29:55.6%)
		公園・広場	8.5%	(H29:18.8%)
	中学生	自宅	89.1%	(H29:58.4%)

エ【進学希望（中学生のみ）】

まだわからないと考える子どもが4人に1人（※前回選択肢なし）います。

大学までの割合は前回より減少し、高校までと答えた割合が上昇しており、保護者回答より低い傾向となっています。

【進学の見通し】	大学まで	37.5%	(<input checked="" type="radio"/> 23.9%)	(<input checked="" type="radio"/> 30.2%)	(H29:67.6%、R2 国 49.7%)
	高校まで	25.4%	(<input checked="" type="radio"/> 36.7%)	(<input checked="" type="radio"/> 26.7%)	(H29:10.6%、R2 国 14.8%)
					※国は「大学またはそれ以上」の割合

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響

世帯の4人に1人が収入が減り、残りの家庭では変化がありませんでした。収入の少ない世帯で、支出が増えた家庭と変化がなかった家庭は約50%ずつです。収入の少ない世帯において、生活に必要なものが買えなかった経験が高めで、家庭内のもめごとや不安・イライラが増えた割合も高めとなっています。小学生は収入の少ない世帯においてイライラや不安が増えており、中学生では収入の少ない世帯及びひとり親世帯で夜遅くまで起きている回数が増えています。

【収入が減った】	保護者	24.3%	(<input checked="" type="radio"/> 47.5%)	(<input checked="" type="radio"/> 30.8%)
【必要な食料や衣服が買えなかった】	増えた保護者	10.0%	(<input checked="" type="radio"/> 33.0%)	(<input checked="" type="radio"/> 17.8%)
【イライラや不安】	増えた小学生	22.9%	(<input checked="" type="radio"/> 32.7%)	(<input checked="" type="radio"/> 27.5%)
【夜遅くまで起きている】	増えた中学生	24.3%	(<input checked="" type="radio"/> 43.1%)	(<input checked="" type="radio"/> 38.8%)

(5) ヤングケアラー

平日1日当たり3時間以上家族のお世話をしていると回答した小学生は、調査回答者1,199人の内13人(1.1%)、中学生が1,372人の内10人(0.7%)で国調査結果(※注2)より低くなっています。家族構成や家庭の経済状況との明確な相関関係はみられず、部活動や通塾などの社会生活を送っている子どももいました。支援者調査では、多子世帯できょうだいの世話をしている子どもや、就労のため忙しい保護者のために家事を担っている子どもがみられました。

(※注2) 国実施「令和2年度、令和3年度ヤングケアラーの実態に関する調査研究」(小中学生:1.9%)

(※表記) : 収入の少ない世帯 (等価世帯収入の中央値の2分の1未満の収入の世帯)
 : ひとり親世帯